

わが国における長期時系列死因別死亡統計の構築

The Reconstruction of Longitudinal Mortality Data of Japan by Causes of Deaths

大津唯・是川夕・石井太 (国立社会保障・人口問題研究所)

ootsu-yui@ipss.go.jp, korekawa-yuu@ipss.go.jp

概要

急速に高齢化の進展するわが国において、死因別に見た長期時系列死亡データの必要性は非常に大きいものの、現時点で十分な精度を持つ同データは得られていない。一方、それに代わるものとして、厚生労働省より公表される人口動態統計において、死因年次推移分類別の死亡数が公表されているが、これはわが国において死亡数の多い主要な死因について、きわめて大まかに分類したものに過ぎず、詳細な分析に耐えうるとは言い難い。

このように、詳細な死因分類に基づいた長期死亡データが得られないのは、死因別統計を作成する際に準拠している国際疾病分類 (International Classification of Disease, ICD) がおよそ 10 年ごとに改訂され、異なるバージョンの間で各死因の定義が一致しないのが主な理由である。

わが国においても、以上のような問題意識を共有し、国立社会保障・人口問題研究所において研究チームが組織され、INED を中心とした長期時系列死因別死亡統計の構築 (MODICOD 計画) へ参加している。具体的には、わが国では 1995 年より導入され、特に大きな改訂とされた ICD9 から ICD10 への接続を目指して研究を進めているところ、その概要につき報告する。

キーワード: 国際疾病分類 (International Classification of Disease, ICD)、長期時系列死因別死亡統計